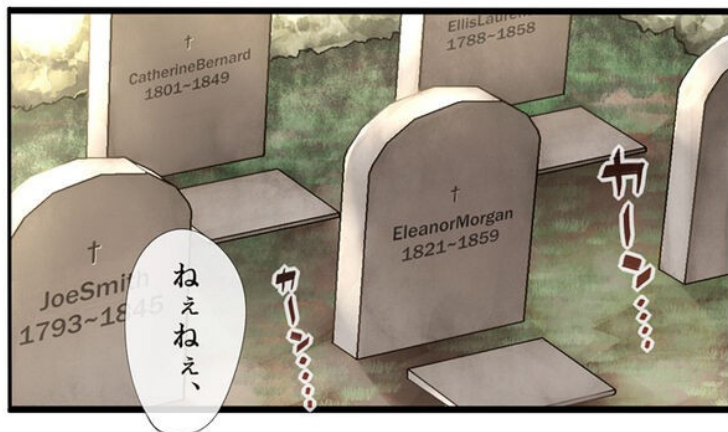


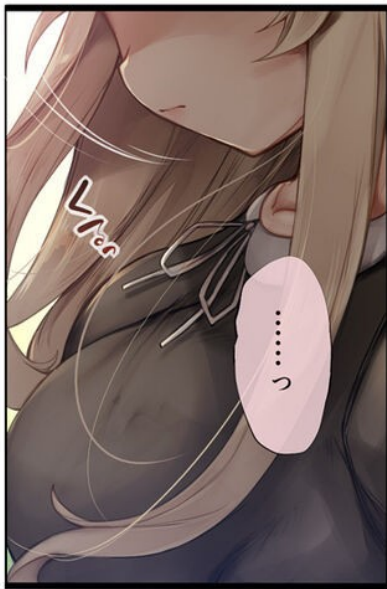
フルカラー-87P

# 町外れの聖女様

大好きなおねえちゃん  
僕の知らない男のモノ

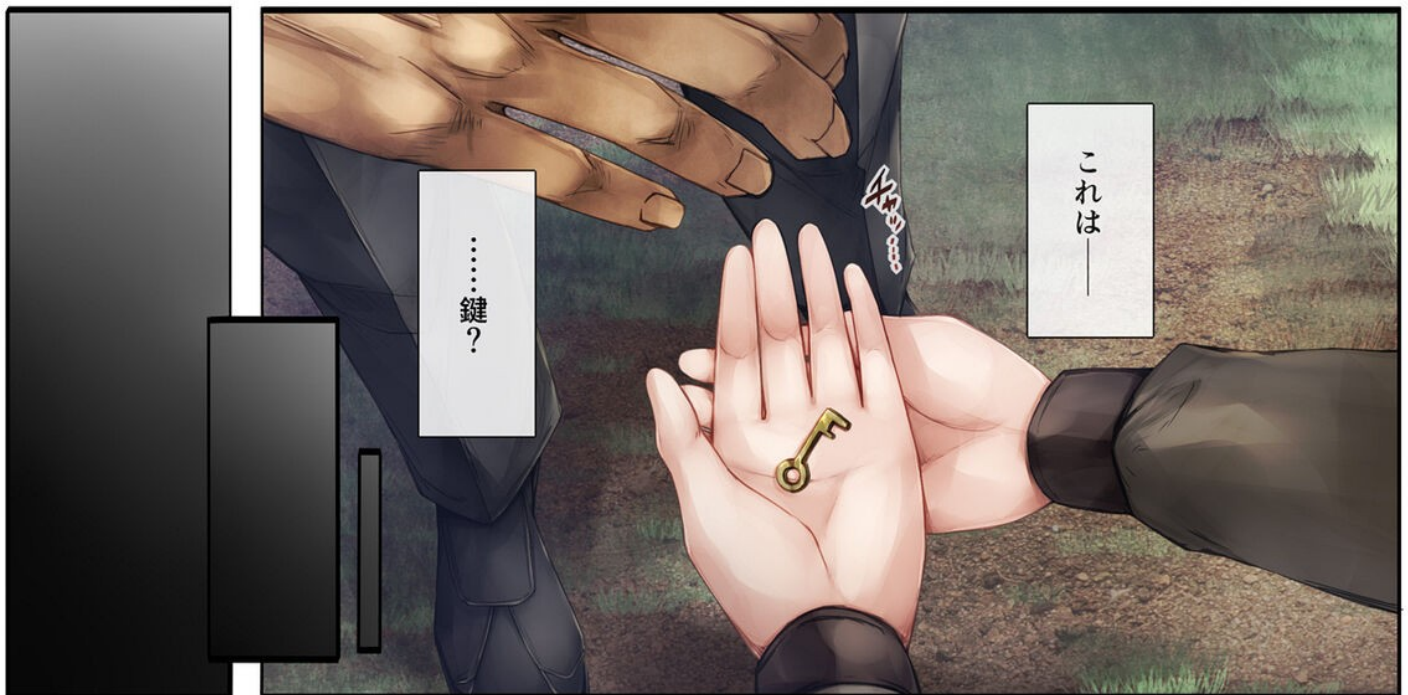
制作：しろくろりき/スギユウ





どうかお見守り下さい  
シスター・エレノア

私がこの子たちを  
守っていきます

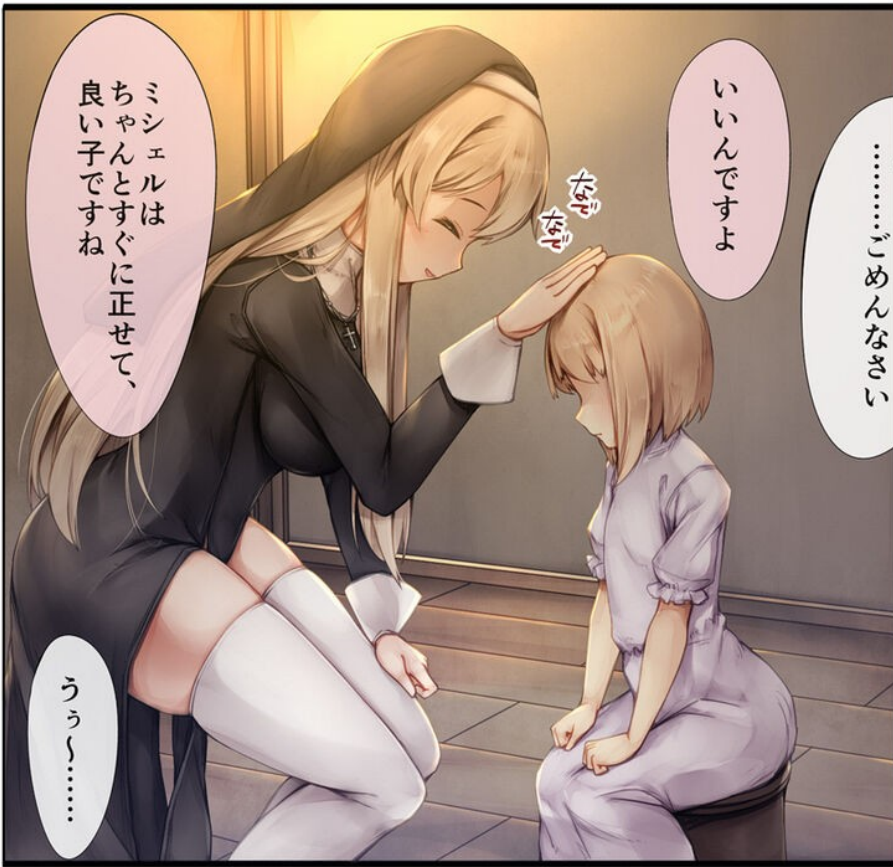


# 1年後——



母なる神の  
恵みに感謝を





ミシェルは  
ちゃんとすぐに正せて、  
良い子ですね

いいんですよ

なま  
なま

えっと……  
……ごめんなさい

うう……



あっ！  
ちがうの！

シスターが  
わるいんじゃないかってね！



どうしたんですか  
ケニー

何か気になる  
ことでも？

……？

あつ、いや！  
何でもないよ  
シスター！

ははは……

なま  
なま



僕の憧れのおねえちゃん  
シスター・カペラ

もとは同じ孤児だったのに、  
シスター・エレノアの死後  
ここの運営を引き継いでくれた

おねえちゃんがいないかったら、  
僕ら家族はこうして一緒の場所に  
居られなかったかもしれない

優しくて、大好きな、  
僕のおねえちゃん

早く大人になって  
それで、おねえちゃんと――

シスター・カペラ

シスター・カペラ

フワ



.....

最近  
おねえちゃんの  
表情が暗い

きっと何か  
気がかりが  
あるんだ

僕が力になれば  
良いんだけどな.....





あつ、うん！  
分かったよシスター！



.....



おい、ずるいぞ！  
シスターはおれと  
あそぶんだからな！

えー！

あらあら  
困りましたねー

ケニー、こっちに  
来てくださーい

んー

んー

私一人では  
手が回りません



そうだ、僕は年長者  
なんだから  
しっかりしなきゃ！

もっとおねえちゃんに  
頼ってもらえるような  
男になるんだ！



いつも  
ありがとうね、  
ケニー

ふふっ……

ゴキ



うん、任せて！

ごめんなさい  
このあと用事がある……

この子たちと荷物を  
お願いできますか？



おねえちゃんの  
おっぱいが……っ

や、やわらか……っ

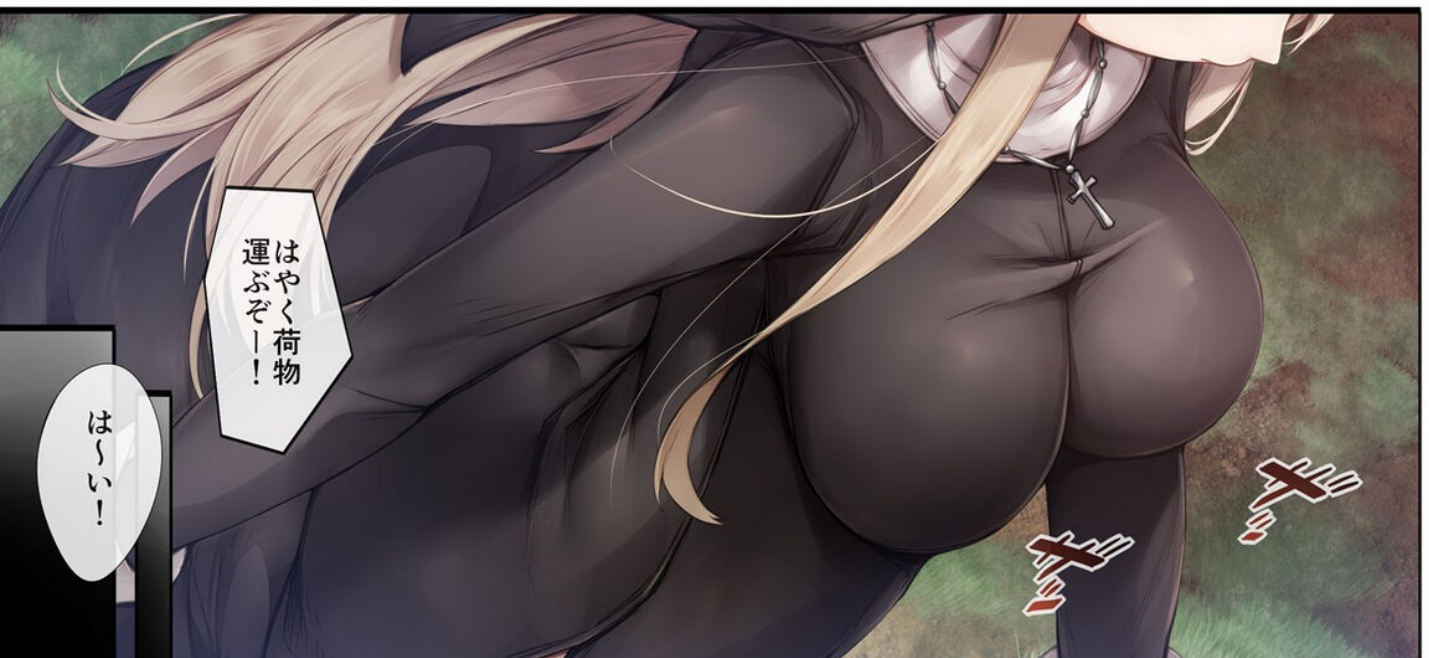
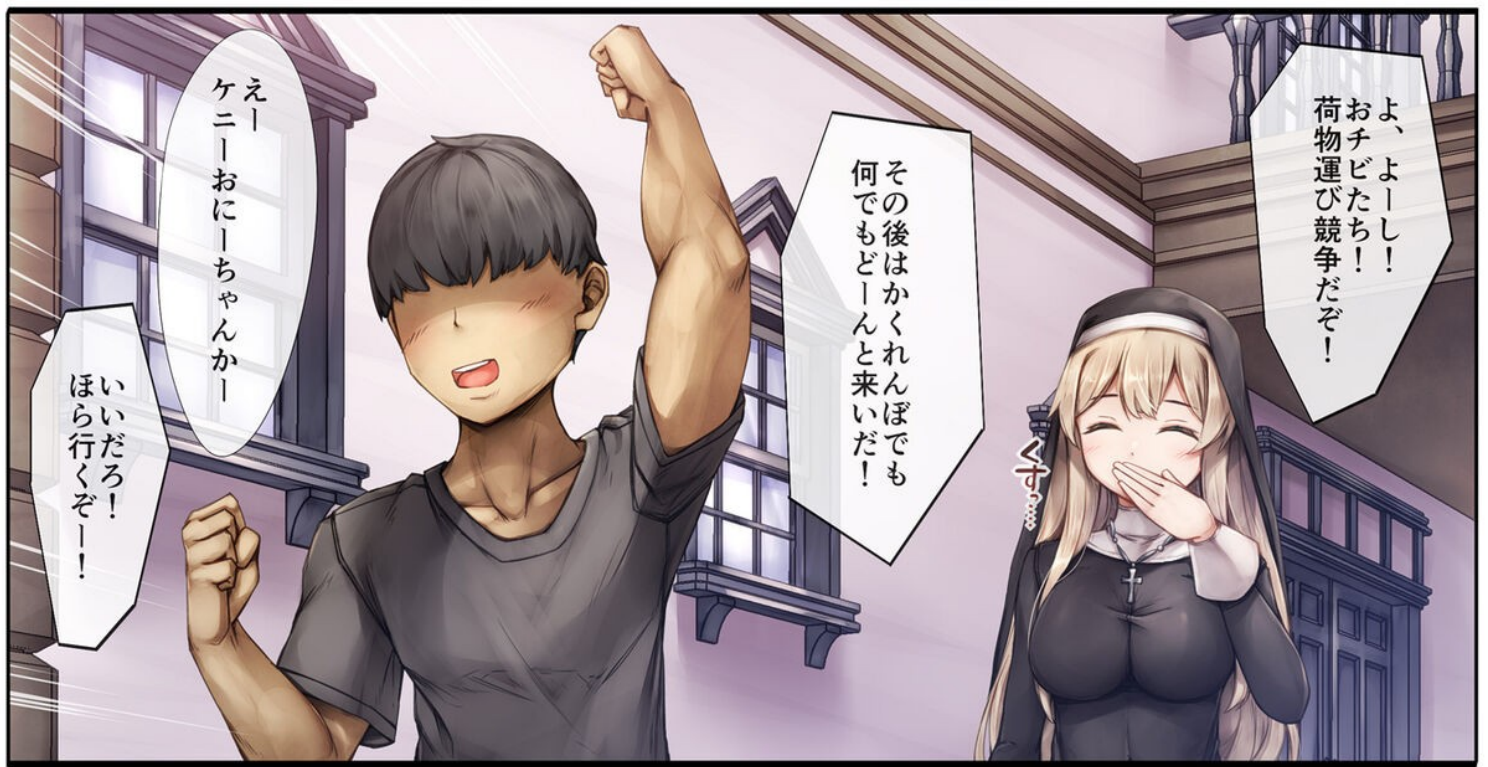
すっごい  
イイにおい……

ゴキ

ゴキ

ふふっ

……っ！







発情した身体から漂うメスの香りに子供たちは気付いてるぞ

クククッ……

今日もいっぱい俺の種を刻み込んであげるからね

いや……あつ！

ビュッ

ビュッ

ビュッ

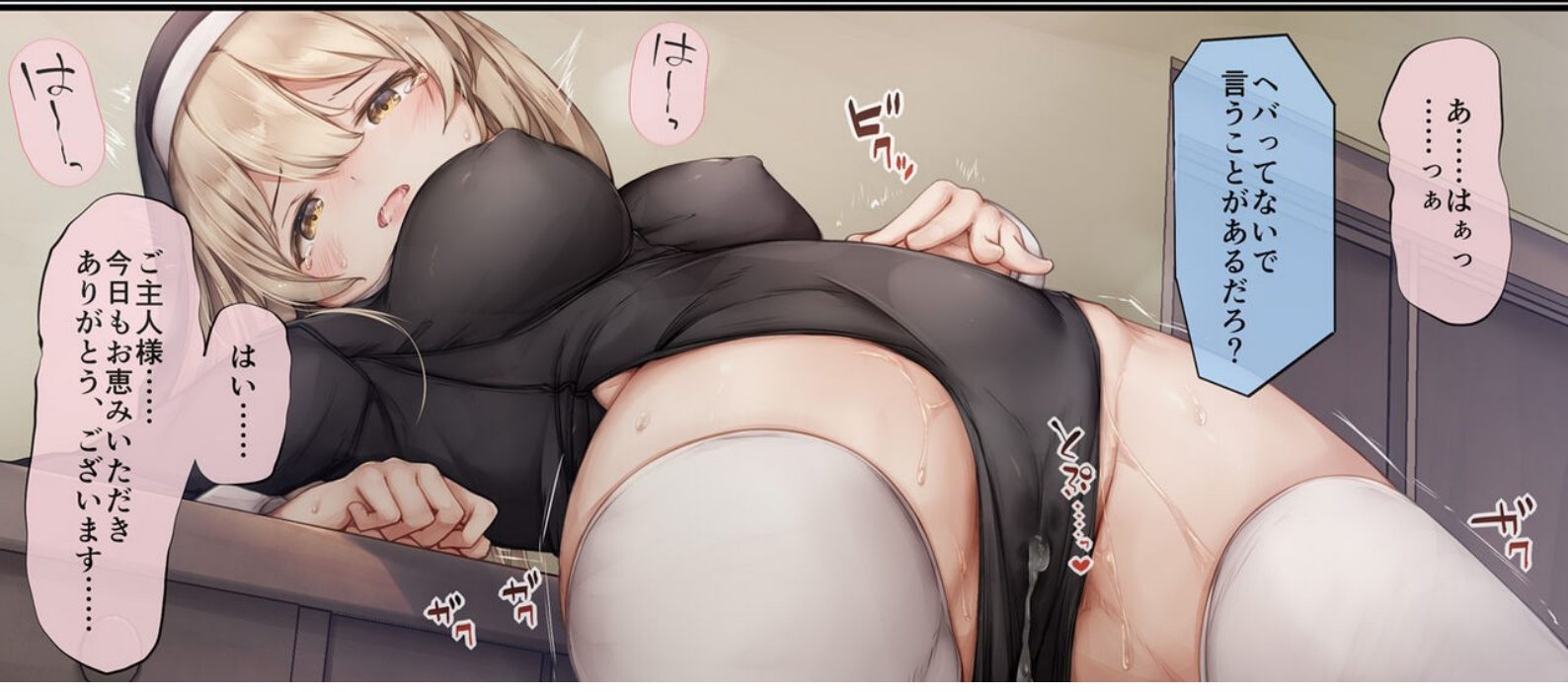
ビュッ

ビュッ

ビュッ

出てる……熱いのが私の中で……

ふ……く……



あ……はあつ……っあ

へばってないで言うことがあるだろ？

はー

ビュッ

はー

ご主人様……今日もお恵みいただきありがとうございます……

はい……

ビュッ

ビュッ





ククッ……  
よし、いいぞ

ガッ

これも孤児院のため……

……わ、わたしの、  
おまんこ……に、  
……ご主人様の、  
おちんちん……を、  
ください……



あぁっ！

どんな辱めを  
受けても……

私はあの子たちの  
生活のために……



グッ  
グッ  
グッ



初めは反抗的だったのに  
随分と慣れたものだな

うあっ!  
うあっ!  
……なっ……  
……慣れてなんて……ッ

嘘をつくな

最初は触ることすら  
嫌がってたたくせに

その頃に比べれば  
今は……クククッ

そ、それは……

私が孤児院を  
引き継いで以降  
国からの補助が  
途絶えた

びしょびしょ

右も左も分からず、  
残された僅かな金銭を  
ただ切り崩す日々  
そんな折に現れたのが  
この人、ゲイルだった

シスター・エレノアの  
人望と手腕があつて  
やっとなんか運営できていた  
のだと知った



一帯を治める領主様のご子息で  
私の身体と引き換えに  
運営資金を融通する約束をした

「畑仕事や給仕で養う」  
などと言いだした時のお前は  
本当にお笑い草だったぞ!

……ッ!  
い、今でも……できるなら  
……こんなこと……

おお、そんな言われ方を  
すると悲しいねエ

アッ……!!  
いえ……その……っ

申し訳  
ございません……

どうか……  
お許しを……っ

俺のモノに  
なったんだからな

はあんっ!

いいさ。  
結局お前は  
俺に頼ってきた

う……あっ

やあ……  
ひ……あっ!



っう……ッ

実際、この人の言うことは正しかった

何も知らない私が畑など起こせようはずもなく  
あの子たちの世話で長時間の外出もできず

ん？ 膣がヒクついているぞ？  
まだ注がれたみたいだな

私は、この人に身体を捧げることしかできなかった

いいぞ、くれてやるよ

でもその選択に後悔はない



ぐわん  
ぐわん  
ぐわん

あ……あああつ！

でもその選択に後悔はない





あ、シスター……

ん？  
あれは――



おちびたち  
どこ隠れたんだ？  
晩ご飯の準備  
始まつちゃうぞ



ふう、今日もご苦労様。  
すごく良かったよ

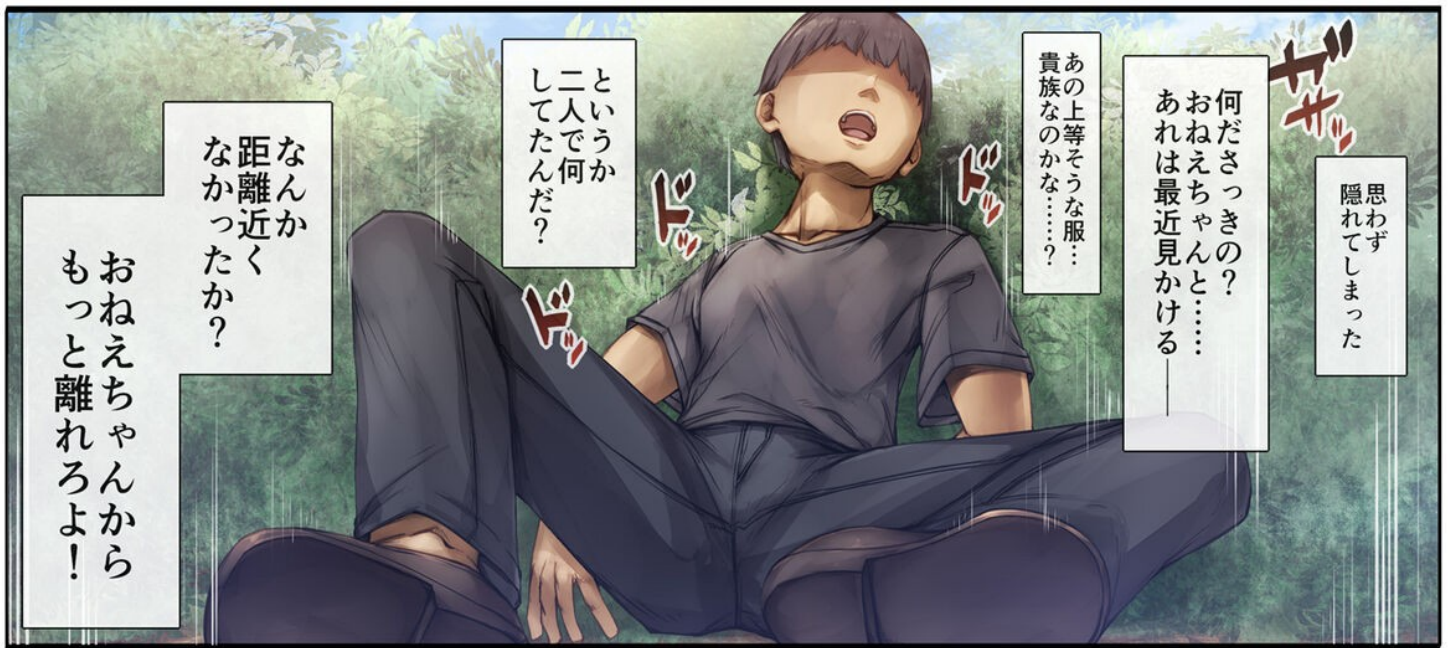
……っ  
今日の「お勤め」は  
終わったんですから  
外ではあまり……

なんだ、  
つれないなあ

あなたが長引かせたせいで  
この後の予定が……それに  
小屋の片付けもろくに……

はいはい。悪かったって。  
次も楽しみにしてるよ

……



思わず  
隠れてしまった

何ださっきの？  
おねえちゃんど……  
あれは最近見かける

あの上等そうな服……  
貴族なのかな……？

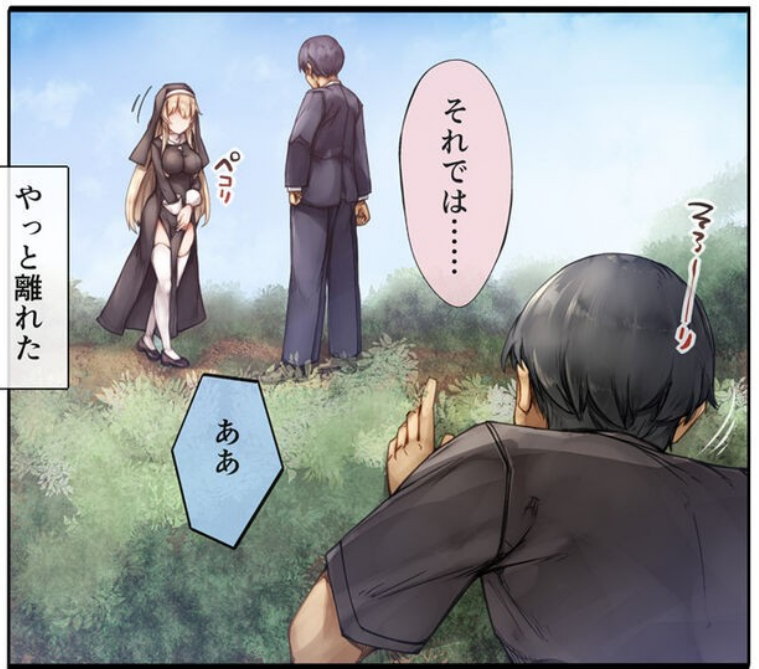
とてんうか  
二人で何  
してたんだ？

なんか  
距離近く  
なかったか？

おねえちゃんから  
もっと離れるよ！



歩いてきた  
方向……  
あつちに  
あるのは……小屋？



それでは……

やっと離れた

ああ



なんだろう……  
すぐくゾワゾワする……

約束破って  
ごめんね

でも……



ここは  
物が散乱してて  
危ないから  
近付くなつて

おねえちゃんが  
言つてたけど



ねえ、  
おねえちゃん……

この部屋で、  
おねえちゃんは、

何をしてたの……？



……べつに危ない様子は  
無いけど……

むしろ  
整頓されてる  
ような



……！

なんだ、この部屋の空気  
ほんのり甘くて青臭い……  
この変な感じは……



……っ！

ギョ

後日、また小屋を  
こっそり見に行ったら  
床の液体は  
綺麗に掃除されてた

思い返してみれば  
おねえちゃんは  
あの貴族っぽい男が  
来たとき

少しの間姿を  
消すことがあった

さっきあの男を  
見かけたから  
急いでここに  
来ちゃったけど

どうしよう  
もしおねえちゃんが  
あの男とここに来たら――

……どうか  
思い過ごし  
あつてほしい

どうか……

……うッ!



あっ……！

や、やっぱり  
あの小屋だ

どっ、どうしよう……  
止めなきゃ……



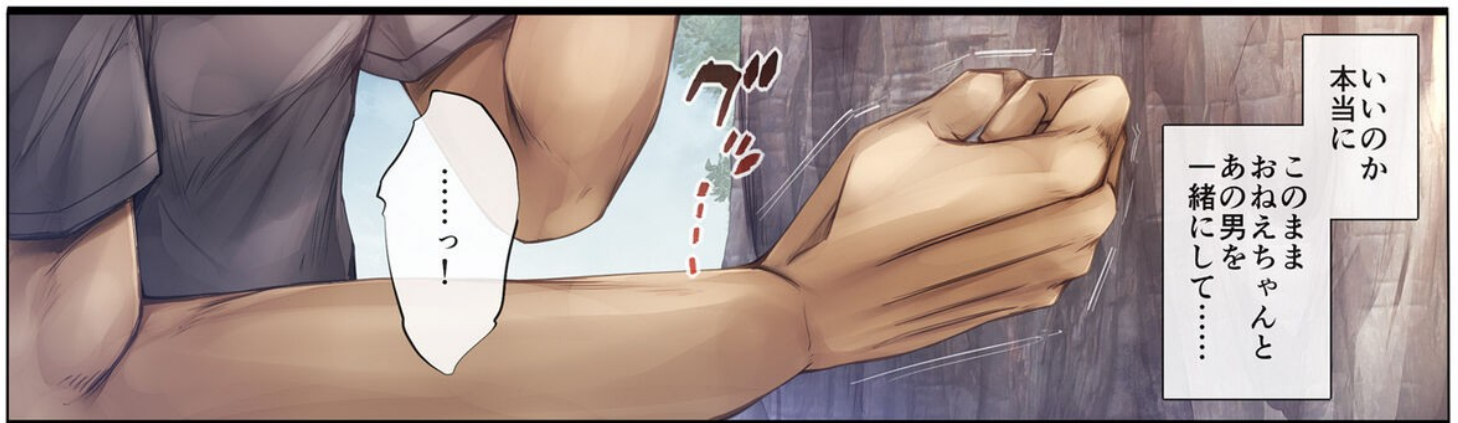
でもまだ「そう」と  
決まったわけじゃないし

でもなんか  
すごく嫌な  
予感がする……



あの男……！  
またおねえちゃんと  
くっついて……ッ

迷惑そうな顔  
してるじゃないか！  
気付けよ！



いいの  
か  
本当に

このまま  
おねえちゃんと  
あの男を  
一緒にして……

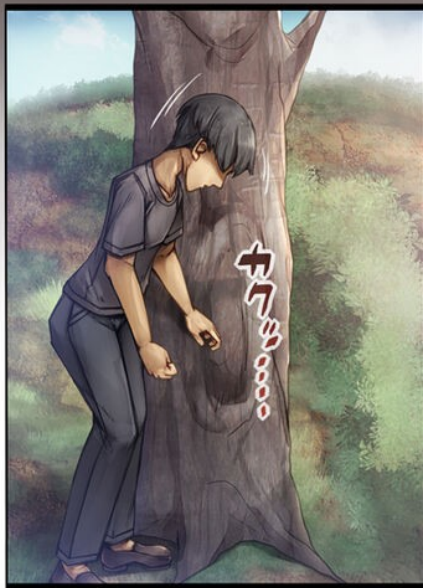
……っ！



おねえちゃんが  
嫌がつてるだろ！

離れろよ！

グッ  
グッ



カク  
カク



キキ  
キキ

キキ  
キキ



.....ッ！

~~~~  
~~~~



なにも……  
言えなかった

わび  
わび

ぐっ  
ぐっ

わび  
わび



小屋を使える  
ようにして  
みんなと  
遊ぼうと

ただ片づけを  
してるだけでさ



……僕は最低の  
意気地なしだ



そうだよ、  
まだ決まった  
わけじゃないし

……いや待て



意気地  
なしだ……

妄想だけは立派で  
何も行動できない



ぞわ

……ッ！



そうだよね？  
おねえちゃん？



ッあ……!

ズ  
ズ  
ズ



あ、あの子たちが  
待ってますので……っ

なるほど、じゃあ  
早く済むように  
協力するんだな

おに、

ビキ  
ビキ



だめですっ……  
お祈りの前に  
こんなことっ……

クククッ……  
忘れたのか?



俺が求めたら  
いつでも  
身体を差し出す  
それが契約だ

あ……

あ、

で、で、で……

く……

た  
た  
た  
た  
た

た  
た  
た  
た  
た

俺はいつでも  
支援を止めたって  
いいんだぞ？

！  
そ、それだけはっ……！  
どうかご勘弁を……

冗談だよ冗談。  
半分はな……フフ

まあ

子供が路頭に迷うところ  
なんて見たくないよなあ

……っ

はい……っ

はー

ふん





なら俺の言いつけは  
守るように  
な？

アッ

アッ

はっ……っ

アッ  
アッ  
アッ

はっ……っ  
はっ……っ

ドゥドゥ  
ドゥドゥ  
ドゥドゥ

アッ  
アッ  
アッ



本当にキミは  
可愛いな

っ

アッ

まだまだ  
楽しませてもらうよ

ふっ

……っ

キッ

はい……あなた様の  
思うままに……

アッ

アッ

アッ

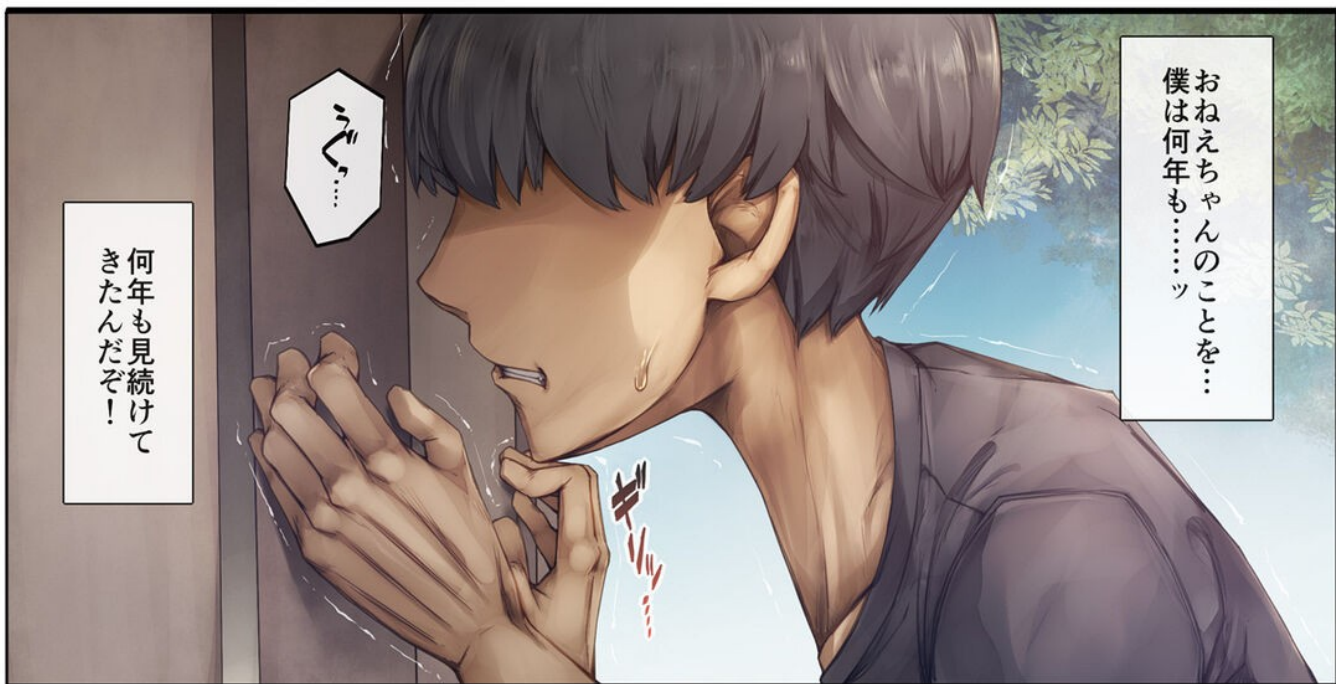


こんな……  
ここ数年の間に  
来るようになった  
男なんか……っ



うそだ！  
そんなっ……！

大好きなおねえちゃん……  
僕……僕のおねえちゃんが……



おねえちゃんのことを……  
僕は何年も……ッ

何年も見続けて  
きたんだぞ！

なかなか良い  
腰使じゃないか

はっ...

ありがとうございます...  
ごじります...

これ、だめ...っ

気持ちいいところ  
当たって...  
腰が...勝手に...っ

絶対に  
気付かれちゃ  
ダメ...

こんな...男の人に跨って  
気持ち良くなっちゃってるなんて...

ぎゅん

びりびり

たん

たん

たん

たん

たん

たん

たん

たん

たん

ふっふっ

たん

たん

たん



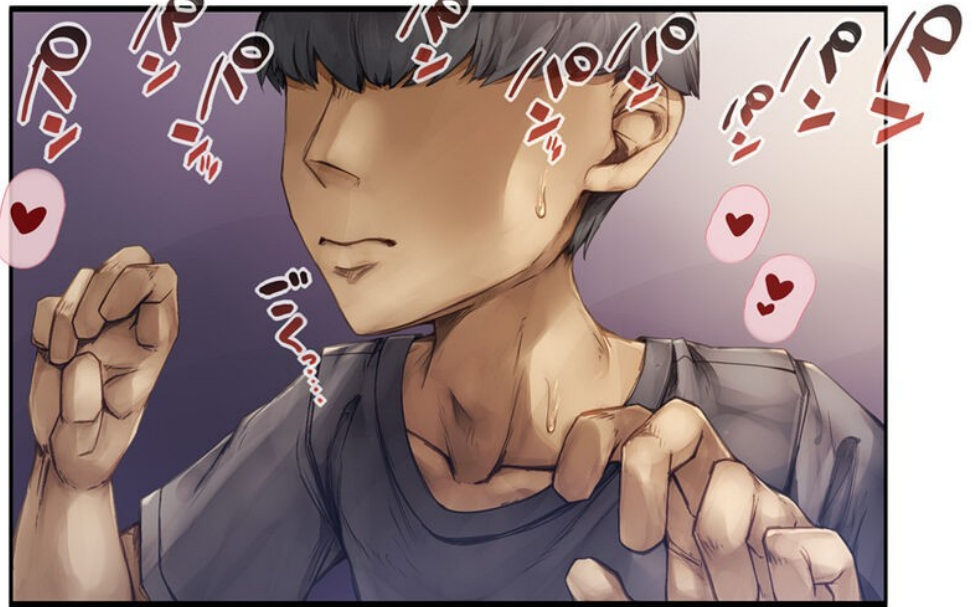


嫌々やらされて  
るんだよね……？



なんで……？  
おねえちゃん……  
自分から  
上になってっ……！

嫌なんだよね……？





どうした？  
動きが緩慢になったぞ

はい、いえ  
そんなことは…

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ



ちよつと  
弱めないと

このままじゃ  
イっちゃう…

ふうっ…

ふうっ…

はっ

はっ

はっ

はっ



はっ

はっ

はっ

……へえ

ニヤァ…



ひあっ……!!  
いいいきなり……  
そんなんっ……んあああっ!!

ひっ……ぐうっ……  
お、お許し……  
くださいませ……

ダメだ

嘘をついた  
仕置きだ

あっ!!  
あっ!!  
あっ!!



い……く……  
う……う……  
!!

~~~~~!!

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

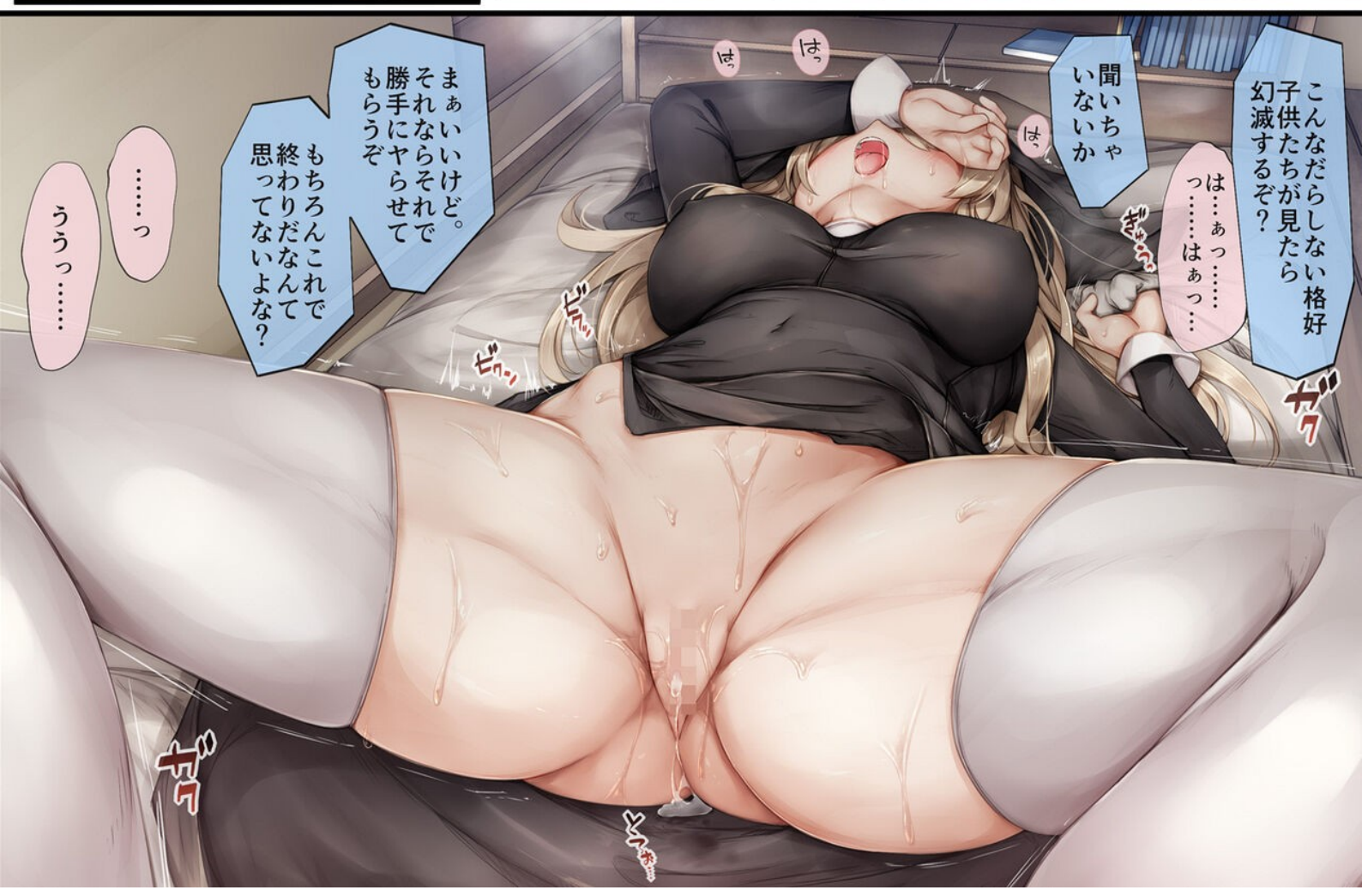
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~





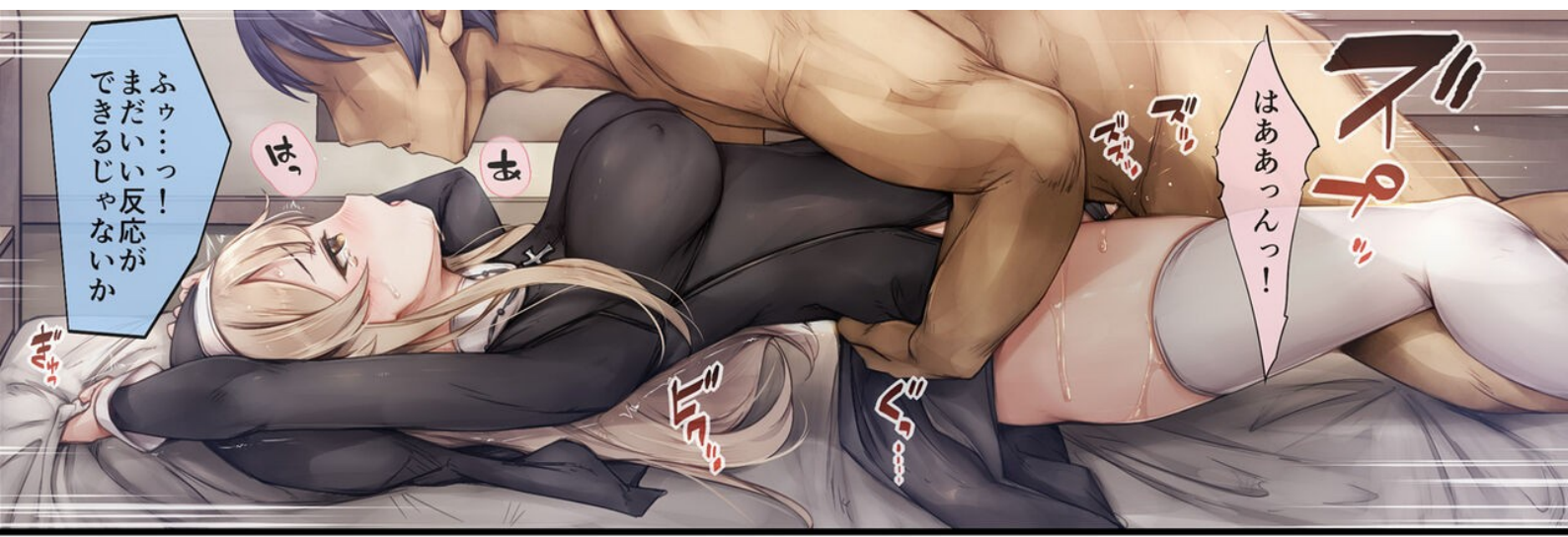
だらしがない  
嬌声をあげて、  
聖女様が  
聞いて呆れる

まあ  
“本来は”こっちの  
ほうが正しいけどな

こんなだらしがない格好  
子供たちが見たら  
幻滅するぞ？  
は……あつ……  
つ……はあつ……

まあいいけど。  
それならそれで  
勝手にやらせて  
もらうぞ  
もちろんこれで  
終わりだなんて  
思っただけよな？

……っ  
ううっ……



はああっんっ!

ブッ  
グッ

ふウ…っ!  
まだいい反応が  
できるじゃないか

は

ま



やっ……  
だめ……ですっ

何がダメだったって?

舌が入ってくる……

んぐっ……ふうっ  
…んーっ

お酒のにおい……

んちゅっ…  
れろ……

やだ……  
気持ちい……

キス……  
頭とろけ  
ちやいそう……

ん

ぐ

ぶ

ぐ

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ん

ズッ  
ズッ  
ズッ



はあっ…

はあ…っ

今日もご苦労

ご褒美に少しだけ  
上乘せしておくよ

…っ

…っ

っあ…

ありがとうございます…  
ごぞいま…すっ…

ところで相談なんだが

………!

まだこんなに  
大きいなんて…

ガ  
ミ  
ン

ギ  
ン

ギ  
ン

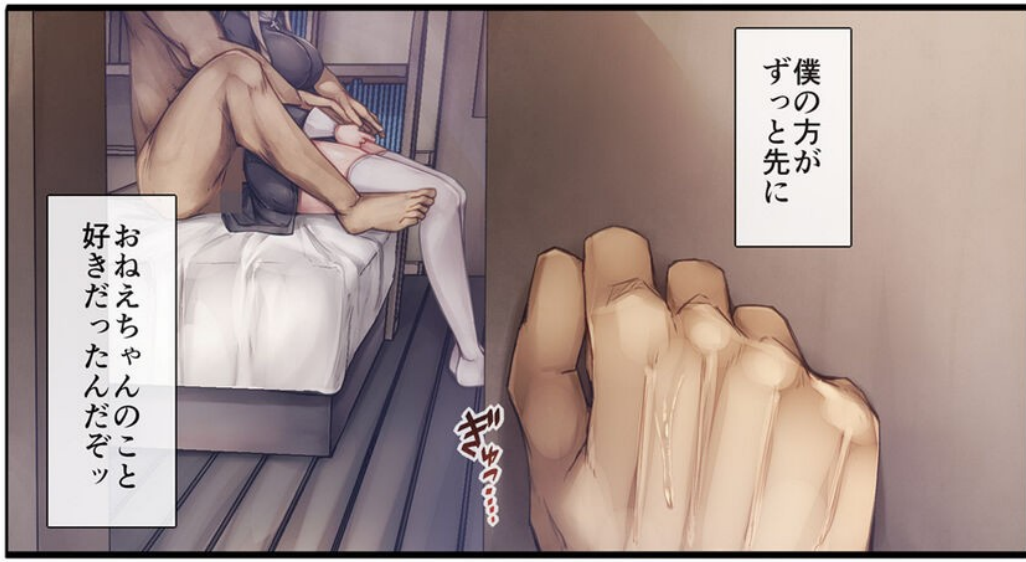
テン  
ン

ト  
ン

………

………はい

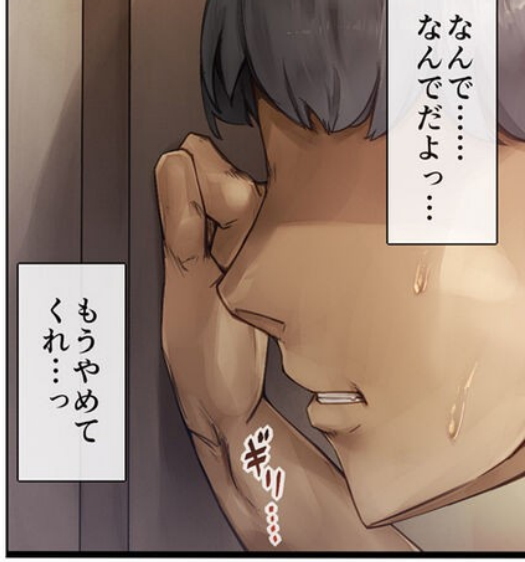
ご主人様の……  
お望みの……ままに……



僕の方が  
ずっと先に

おねえちゃんのこと  
好きだったんだぞッ

ぎゅ



なんで……  
なんでだよっ……

もうやめて  
くれ……っ

ぎゅ



ずっと一緒にいたのは  
僕の方なのに……ッ

僕のおねえちゃんを  
とらないでよっ……



それにしても  
今日はいつもより  
良い声で鳴くじゃないか

そ、そんなこと……  
ありません……

は……

は……

声出さないように……  
しなぎやっ……

たん

たん

たん

たん

たん

でも……だめ……  
声、出ちゃうっ……

あっ……く……ふ……

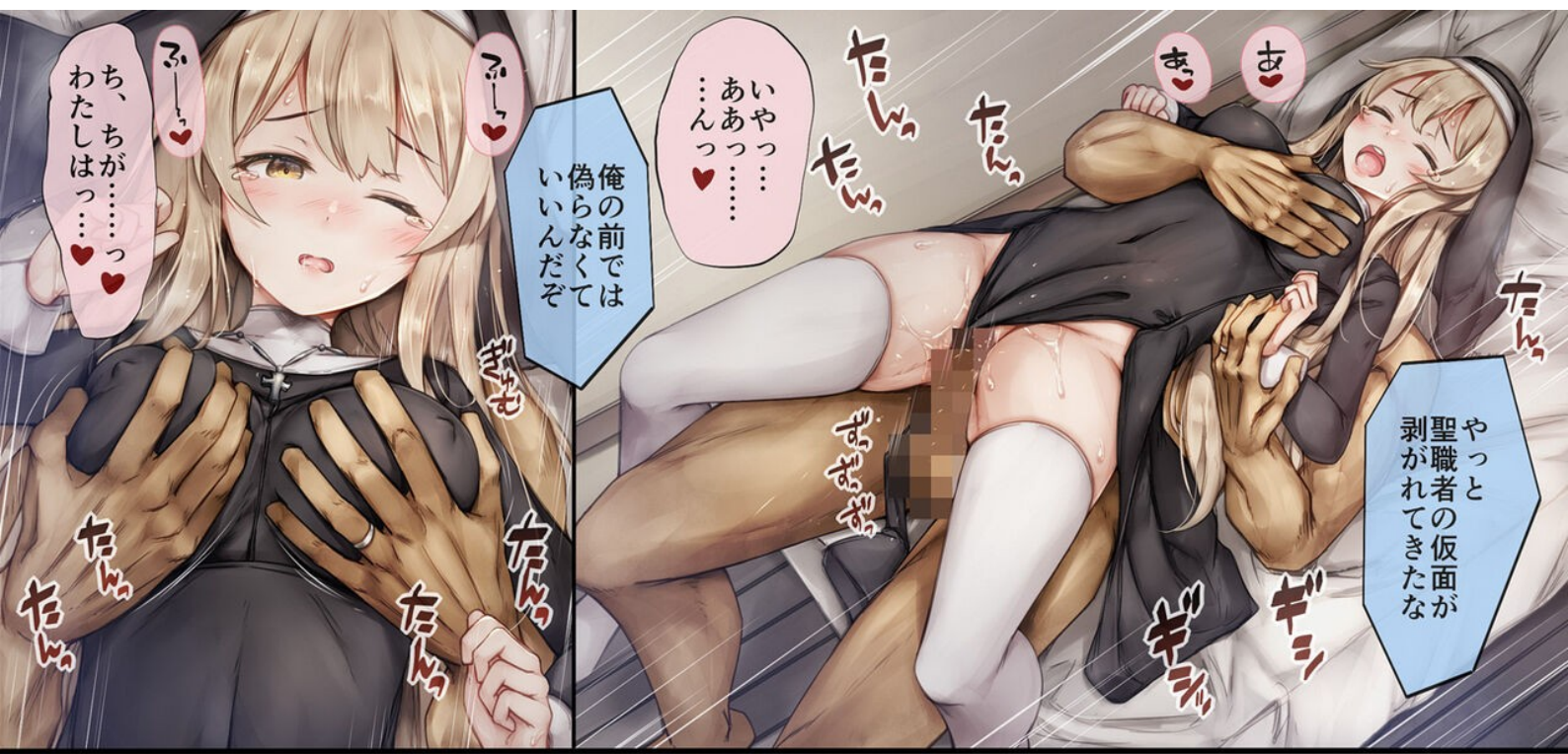
たん

き……

これはお勤めなのに……  
気持ち良くなっちゃ……

たん

たん



ち、ちが……っ  
わたしは……っ

ふっ

俺の前では  
偽らなくて  
いいんだぞ

いやっ……  
あぁっ……  
……

たんたん  
たんたん

あぁ  
あぁ

やっと  
聖職者の仮面が  
剥がれてきたな



びびり  
あぁ

実際、憧れの聖女様が  
姦淫に耽ってるなんて  
想像もしてないだろうさ

いやいや、  
子供たちを騙して  
上手くやってるよ  
キミは

あぁ  
あぁ

そんなんっ！  
わたしは……  
そんなんつもりじゃ……

おははは  
おははは

おははは  
おははは  
おははは

おははは  
おははは



男に抱かれた  
そのカラダで  
子供たちと接する  
背徳感は

さぞかし  
甘美だろうなあ

いやあっ……  
言わないで……

は……

は……

言わないで  
くださいませ……

は……



ほら、お望みの物を  
くれてやる!

……っあ

あ……  
あ……  
あ……

あ……



あ……

あ……

あ……

あ……



……つふ……う  
……あ……っ♡

どうだ？  
自分が淫乱の娼婦だと  
自覚できたか？

……っ♡

っは

はあ

はあ

いくらこの人に  
身体を弄ばれても

私は――

シスター・エレノアの  
遺志を継がなければ  
ならないんです……

私は……この孤児院の……  
シスターでございます

ゴクッ♡

ズクッ♡  
ズクッ♡

ガク

ガク



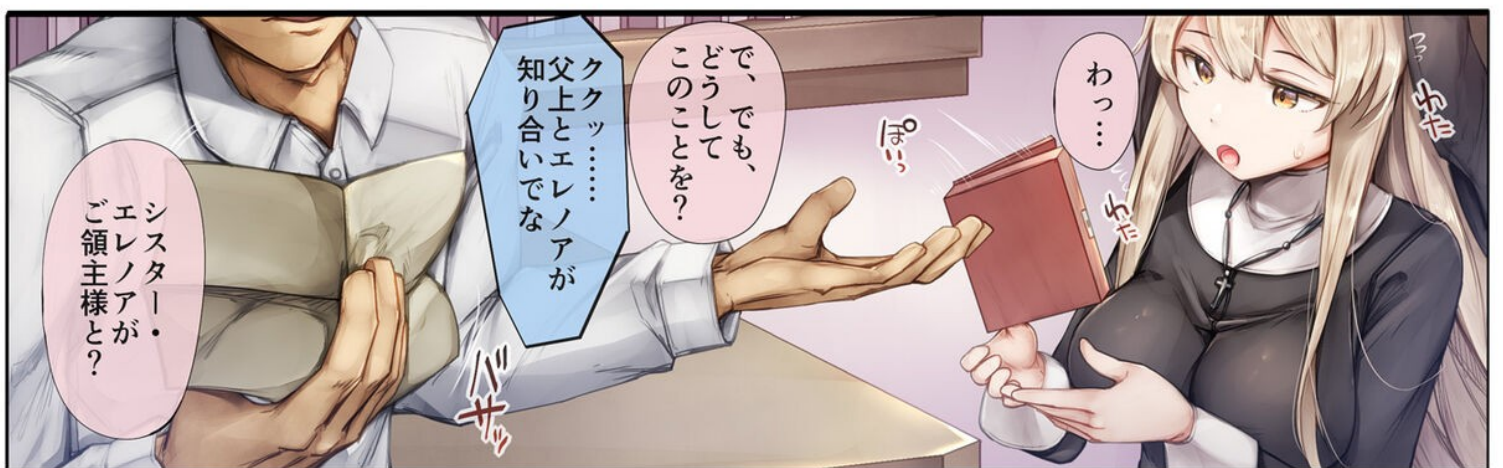
ほお？

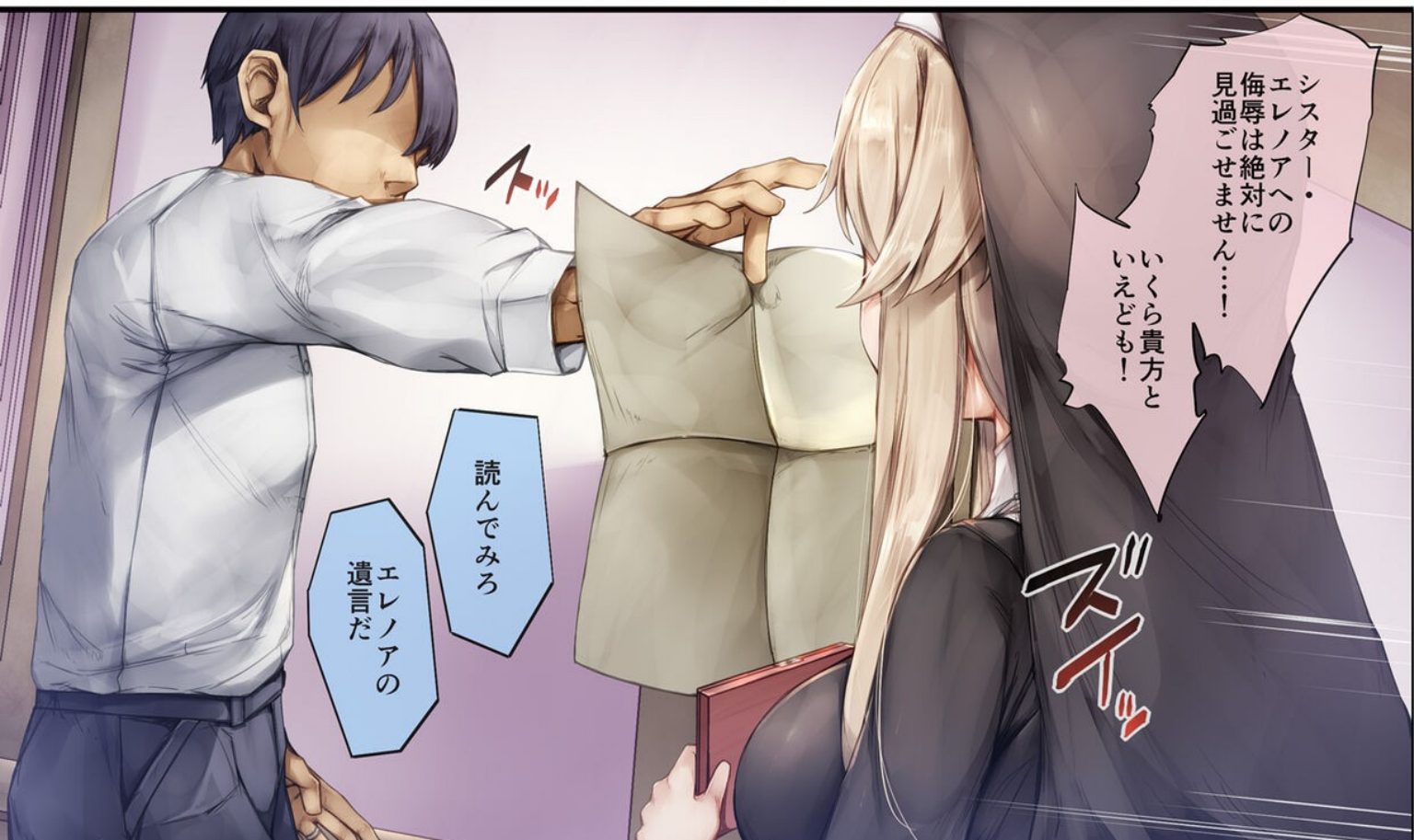
もしかして  
お前は

自分が  
シスターだと  
本気で  
思ってるのか？

ニヤァ……







『親愛なるカペラ』

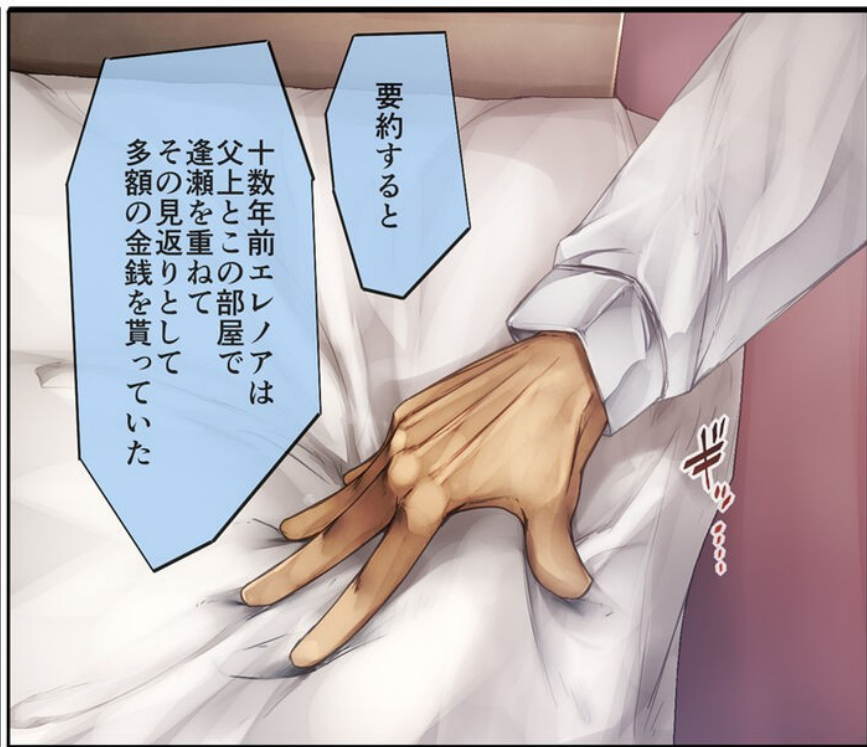
『最後まで  
言えずにいた  
弱い私を  
許してください』



エレノアは父上と  
結ばれようとしたが  
娼婦が領主の妻に  
なれるわけもなく

だからエレノアは  
娼館最後の  
一人になった時に  
私財を切り崩して

娼館に孤児院の  
上っ面を貼り付けて  
娼婦からシスターに  
なろうとしたのさ



要約すると

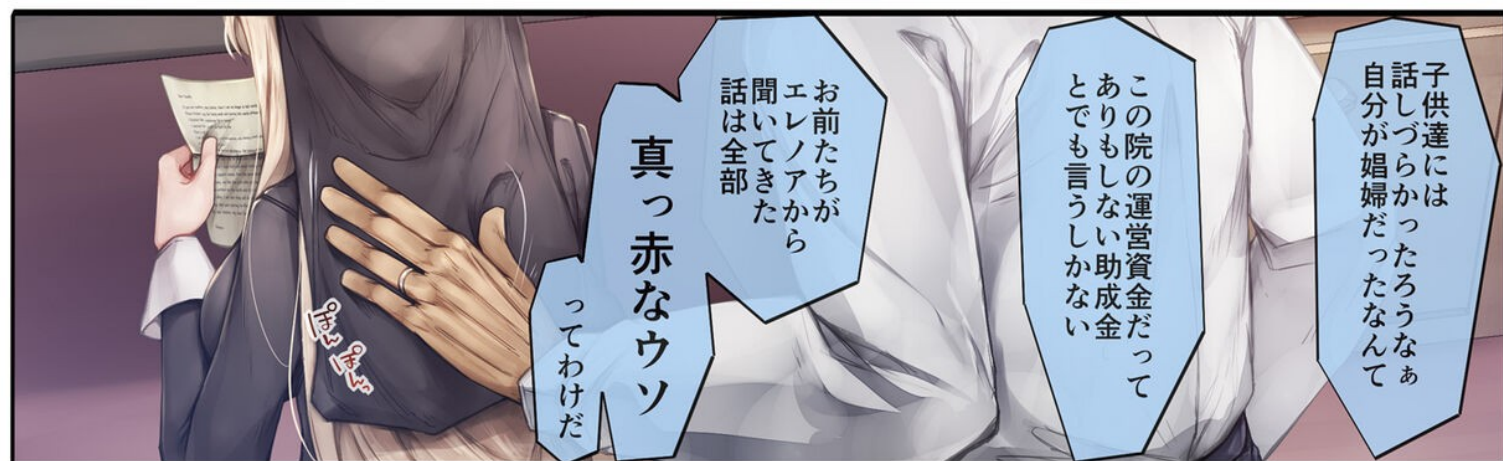
十数年前エレノアは  
父上とこの部屋で  
逢瀬を重ねて  
その見返りとして  
多額の金銭を貰っていた



この家だって  
孤児院というには  
小綺麗な外観に

子供一人一人に  
部屋を用意できる  
ほどの広さ

一個人が運営する  
孤児院にしては  
あまりにも  
不釣り合いすぎる



子供達には  
話しづらかったろうなあ  
自分が娼婦だったなんて

この院の運営資金だって  
ありもしない助成金  
とでも言うしかない

お前たちから  
エレノアから  
聞いてきた  
話は全部

真っ赤なウソ  
ってわけだ



嘘をつき続けて結局それでも父上と結ばれることはなく  
エレノアは  
真実を言えないまま死んでいったのさ

哀れな女だ

なっ……  
この人は  
何言ってる……？

だめ、頭に  
入ってこない……



まやかしの姿を追った結果が今のお前ってワケだ

う……っ



ハナから成り立つわけがない孤児院を任せられて  
とんでもない貧乏クジだったな

うあ……



わ、私は……っ！  
シスター・エレノアの背中を追って……っ！

ここまで必死に……っ！



なあ、知ってるか？

町でお前がいてのか



町外れの聖女様、だ



森に打ち捨てられた小舎から始めたのがここ、娼館って話だ

そんなやつらが何十年も前に寄り集まって

こんな僻地まともな商売が成り立つわけがない

外された、つまり罪を犯して追い出されたってことだ

一つはそのままの意味、そしてもう一つは「町から外された人々」って意味だ

町外れには二つあってな



そして、その流れで  
お前のことも  
察しはついでる  
だろうな



町の年寄り連中は  
知ってるのさ



この土地の  
過去も  
エレノアの  
ことも



だから、侮蔑の意味を込めて  
“町外れの聖女様” って  
呼んでんだよ

体を売って  
日銭を  
稼いでる

卑しい  
聖女様

ってな

ひっ……



そうじゃない  
としても……

たとえば……荷物を  
持ってきてくれる  
あの人だって……

いつかは……

まあ出来は  
イマイチかも  
しれませんが  
はまは……



知られて……？

ぎゅ

追加で入れておいたんで  
せひ皆さんで



一部の奴から見れば  
娼館育ちの  
立派な娼婦なんだよ

自覚できたか？

……ッ



わ、私は……  
ただあの子たちの  
ためと思って……

志はご立派さ

スッ

何かを犠牲にしても  
守りたいものを守る、  
そういう姿勢には  
好感が持てる



子供たちにこの重荷を背負わせない方法があるとしてもか？

……

……わかり、ません

……！



うう……っ  
わ、私は……っ

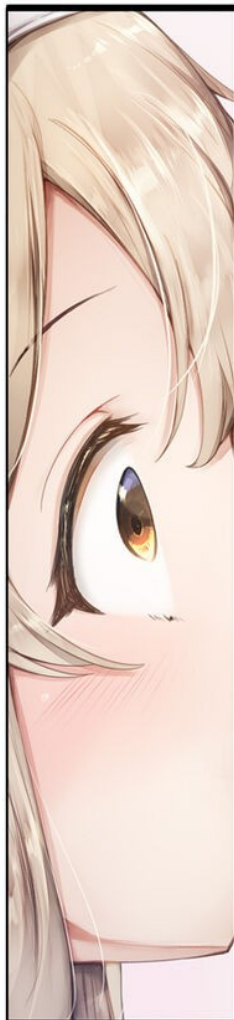
お前はエレノアになりたいのか？

また孤児を引き入れて、この娼館まがいの孤児院を継続させるつもりか？



答えは明日でいい

一晩よく考えておけ





おねえちゃんが  
無理やりあんな事  
されてるのに

くそくそっ！

なんでっ！

僕は何を  
やってんだ……！

くそくそ



はあっ  
はあっ  
……

う……ッ



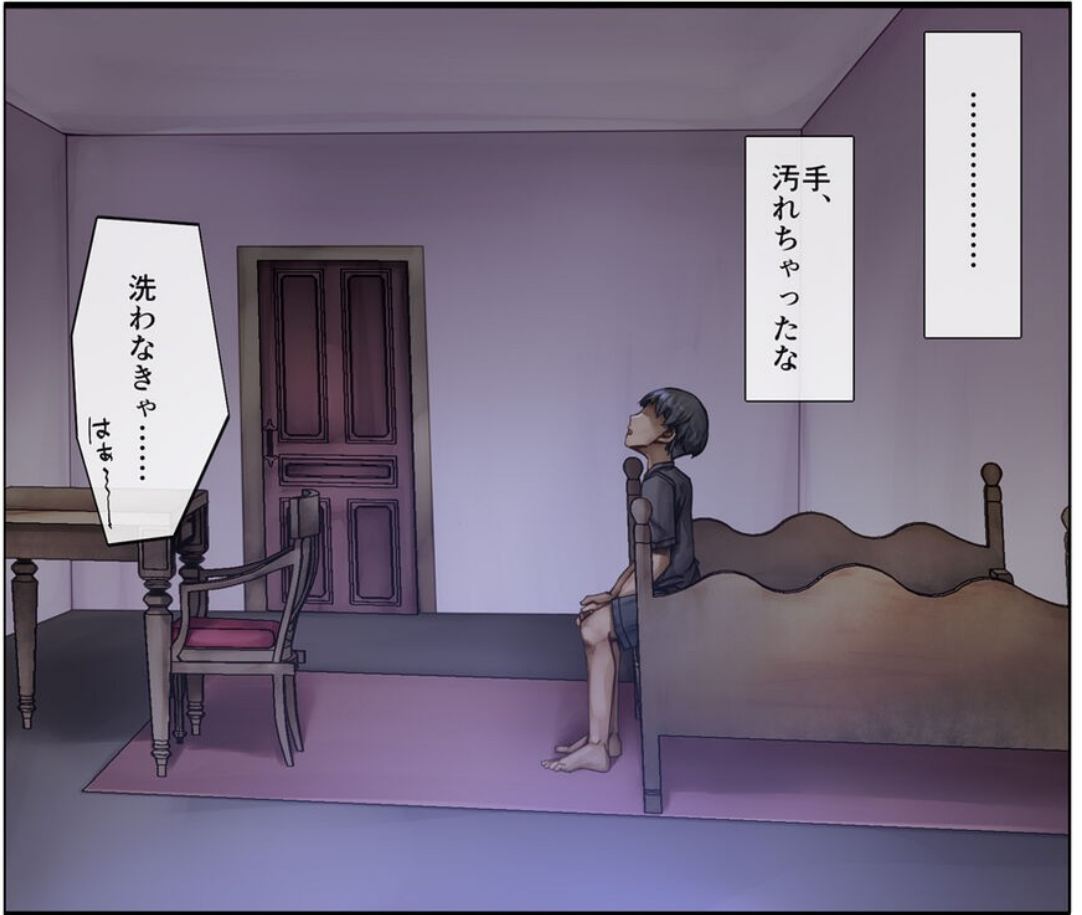
だめだ、おねえちゃんの  
あの姿を見てから  
興奮が収まらない……

はあ

はあ



キーン



……

手、  
汚れちゃったな

洗わなきゃ……



ああ、ケニー  
まだ起きてたんですか？

うん



あっ……



ケニー？

シスター！  
あの、もし何か  
つらい事があるなら  
話してよ！

力になるからさ！



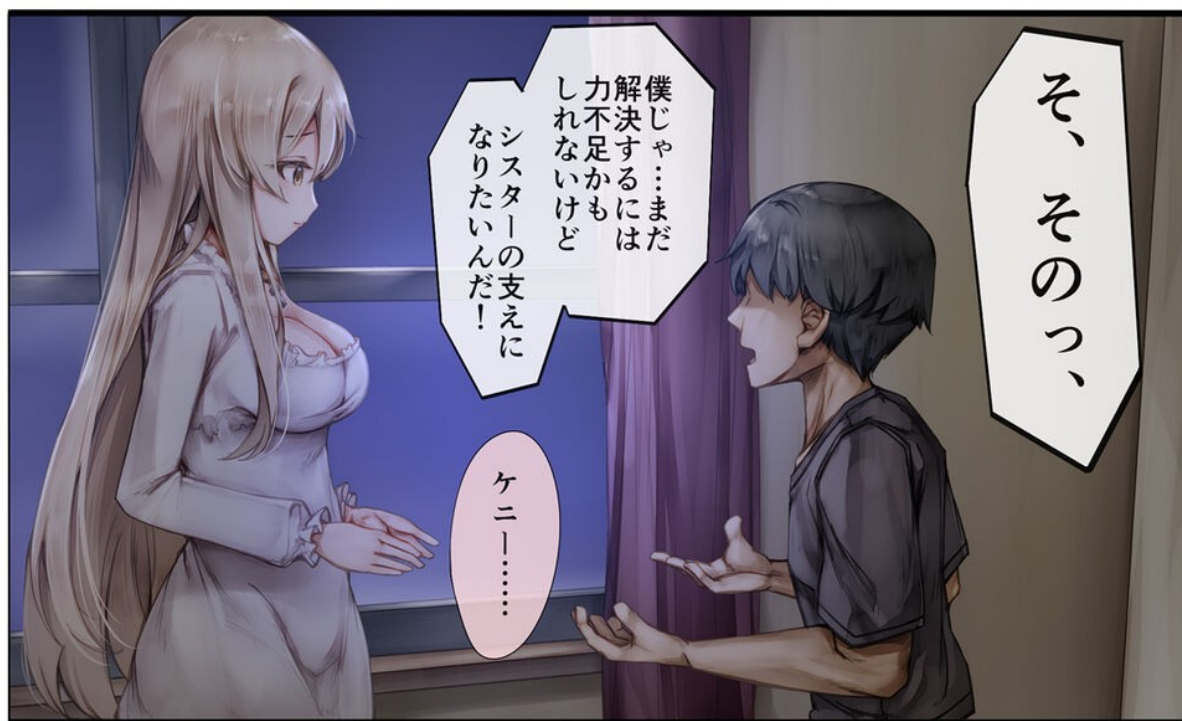
早く寝ないと  
大人になれませんかよ

私が子守歌でも  
歌ってあげましょうか？  
ふふっ



……

ん？



そ、そのっ、

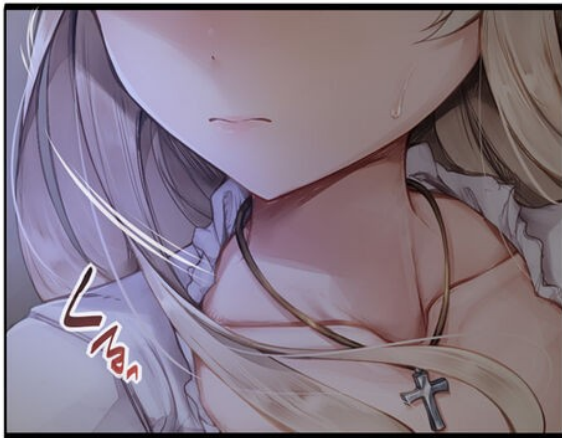
僕じゃ…まだ  
解決するには  
力不足かも  
しれないけど  
シスターの支えに  
なりたいんだ!

ケニー……



……ありがとうございます  
ごぞいます

でも……



シスター、  
最近ずっと  
暗い顔してるよ

……!

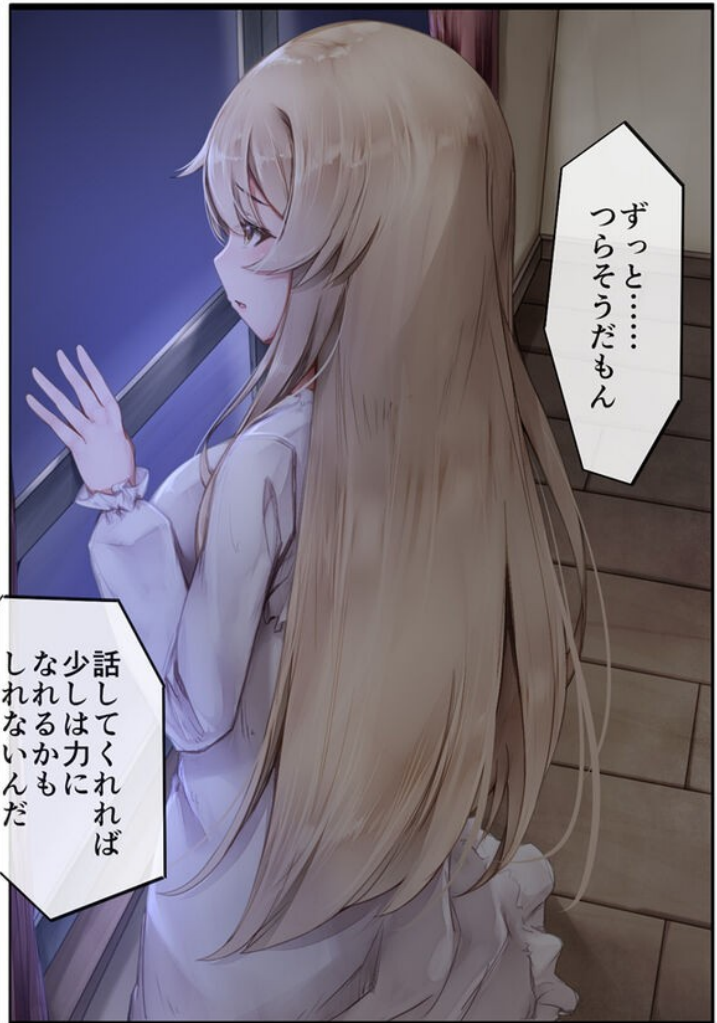


おねえちゃん!

シスター……



話してくれば  
少しは力に  
なれるかも  
しれないんだ  
だから、



ずっと……  
つらそうだもん



ほら  
行くよー!



おねえちゃんに  
まかせて！  
ねっ！

大丈夫！



ねえ、ケニー！  
今日はあつちの  
お山で遊ぼ！

お、おねえちゃん……っ  
シスターがあつちは  
あぶないって  
ゆってたよ……っ



す……

……ありがとう  
ケニー



おねえちゃんには  
笑顔でいて  
ほしいんだ！

あの頃  
みたいに！



あの頃のように  
いられないんです

もう、

……でも

ふっせ

A-51



……あつ

く……つ



………うん

アハハ



あつ、おねえちゃん……

今日はもうお休みにしましょう

明日も子供たちのお世話頼りにしますよ

アハハ

アハハ



ごめんなさい

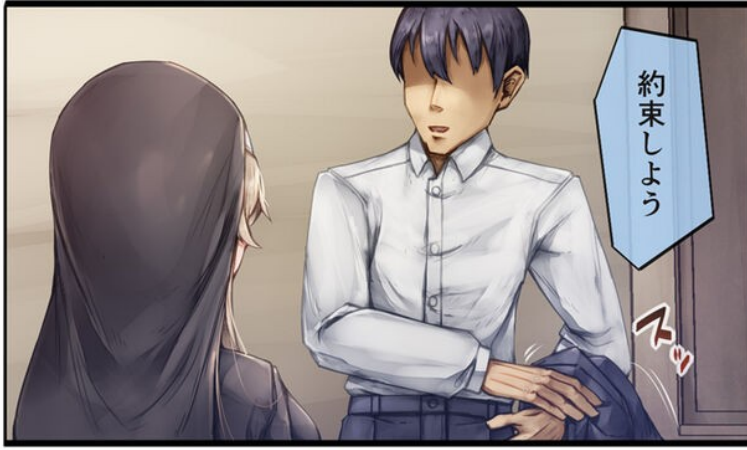


おやすみ……おねえ……ちゃん……

………

アハハ

アハハ



約束しよう

フゥ



あの子たちが  
成人するまでの  
継続支援

町の中に  
孤児院を設立

そして……  
この解体

これが  
条件です



……ありがとうございます  
ございます

ギョ



よし  
ひざまずいて  
舌を出せ

はい……っ

フゥ

フゥ

フゥ



私、カペラは……

身も心もすべて  
ご主人様に捧げる事を

ここに誓います……

フゥ……

……







今日からお前は  
俺のモノだからな

はい……♡

とぅん……♡



いい子だ

ん……♡



ん……♡

ん……♡



ん……♡



自分で  
おねだりを  
してみせろ

あっ……

グイッ



今日は門出だ

少し趣向を  
変えてみようか

ズッ



ぎゅっ……

はあんっ!

あ……くうっ……♥

ぐりゅっ



あうっ!

ほら、次は?

……くうっ!

そ、そのままっ……  
私のナカを……かきまぜて……っ

ぎゅっ



ほら、次は  
どうするんだ?

んあっ……  
ま、待って、  
ください……っ♥



クククッ……

だめだ

ぬっか……♥

く……ふうっ♥

ズッ  
ズッ



口に出すと意識しちゃう……

繋がってるところ……っ、いっぱい掻き混ぜられて……っ

おく…奥もっとな突いてっ……っ突いてくださ……っ



ひっ……

きた……っ奥っごりごりって私の気持ちいいトコ……っ

あーっあああーっ



そ、そのままっ奥にっびゅーっしてっしてくださ……っ

あーっあーっあーっ

あーっあーっあーっ





フフ……まだ全然満足できてないって顔だぞ

そ、そのような……ことは……っ♡

男を悦ばせるために生まれてきたようなこんなカラダしておいて貞淑ぶるんじゃない

あっ……♡



まさか一回で終わりだなんて思ってたんじゃないよな？

っ……うう♡



ついでに掃除もな



今度はこっち、使ってくれよ



……は、はい  
仰せのままに……♥

ん…ふっ

ご主人様のモノ…  
おつきい……

さっきまでこれが  
私のナカに……♥

……!

い、いけない……  
私なに考えてるの…

は

は

今はこのお勤めに  
集中しなきゃ

ギシ

ギシ

ゆる

フッ

ドリ

ズッ

ズッ

ズッ



心のつかえが取れて  
晴れ晴れとした  
気分だろうか？

ん？



ククッ……今日の奉仕は  
また随分と気合が入ってるな



……っ



ククッ……  
そうやってるのを  
見るとまるで  
神に祈ってるみたいだな

……ッ！

私にはもう  
神に祈る資格など  
ありません……

こんな穢れた  
一介の娼婦には……

……

ふ

ふ

まじ

まじ

たん

たん

たん

たん



息...苦しい...っ

ん...んんっ!

苦しいのに...っ ♡



ん...んんっ!

ん...んんっ!

ん...んんっ!



ん...んんっ!

信仰心なんて  
上書きしてやるからな

毎日お前を抱いて、  
何も考えられなくなるまで  
快楽に染めてやるッ!



鼻の奥まで  
精液の匂いが  
こびりついて……

んぐっ……  
じ……っ

頭の中全部……  
ご主人様のニオイが  
漂ってるみたい



エロ……っ

エロ……っ



ご主人様の……  
まだこんなに元気……

あ……  
だめだ……

ワタシ……  
欲しがってる……っ

ご主人様に滅茶苦茶に  
されたがってるっ……

よしよし  
良い子だ  
しっかり  
舐め取るんだぞ

……あ

さっ……

ん……



そんなに  
欲しかったか？  
今日はいつになく  
積極的だな

あ……くっ……

そ、そういう  
わけでは……  
ふ……あああっ！

くる……っ

ご主人様の……



私のナカ……  
かき分けて……っ♡

……ッああっ！♡

ゴッ

ゴッ

ガッ

ガッ

きゅん

ニッ



ふーっ...  
ふーっ...  
っ

入っただけなのに...  
軽くイっちゃった...  
...

ん?  
何を休んでるんだ

動いても  
いいな?

も、申し訳  
ごさいません  
少しだけ、  
このまま...  
どうか...



あっ! ♡

ひっ! ♡

やだっ...  
気持ちいいの...  
止まらない... ♡



だめだ

あうっ!

ひっ...あ...だめえっ...  
まだイったばかりなんです ♡

知ってるよ  
そんなの



近々お前を  
屋敷に招き入れる

……?!

父上は当時、  
エレノアより家柄を  
選んだのを後悔しててな

ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ

ゴッ  
ン

ゴッ  
ン

でも俺は違う

お前を  
妻として  
迎える

初めて会った時から  
そう決めていた



はむ、

はむ、

とても真剣な  
顔してた……



もうお前は  
俺のものだからな

手元に  
置いておくのは  
当然だろう？

じゅわ

……!

いつも私を嘲笑ったり  
貶してばかりなのに……

ゴッ  
ン

ふんっ！  
ふうっ！  
……

だめ……

こんなの……ただの  
気紛れかも  
しれないのに……

私が手に入ったら  
すぐに捨ててしまう  
かもしれないのに……

強引に  
リードされて……♡

喜んじゃってるっ♡

私のお腹が  
赤ちゃん欲しいって♡

♡  
ウズウズ  
しちゃってる……っ♡









ちよっと話があつて……  
ごめんね、小屋には  
近付かない約束だったのに

……

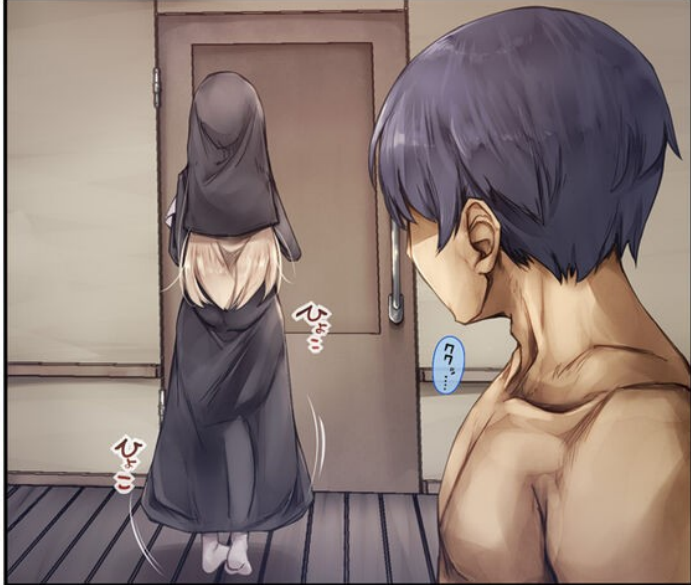


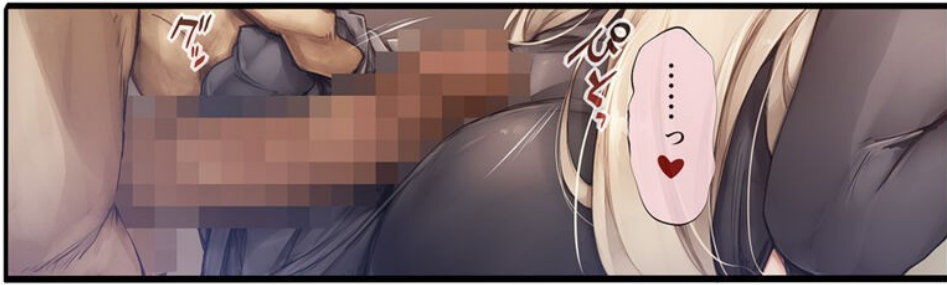
シスター？



あ、えと、ケニー？  
どうしましたか？

この前の話……  
シスター、何か  
隠してるみたい  
だからさ







何でも……  
ないですよ♥

い、いえっ……♥



どうしたの？  
シスター？!

シスター？!



はっ♥  
たんたん♥



わかって  
るんだ……!

何も  
もんかっ!



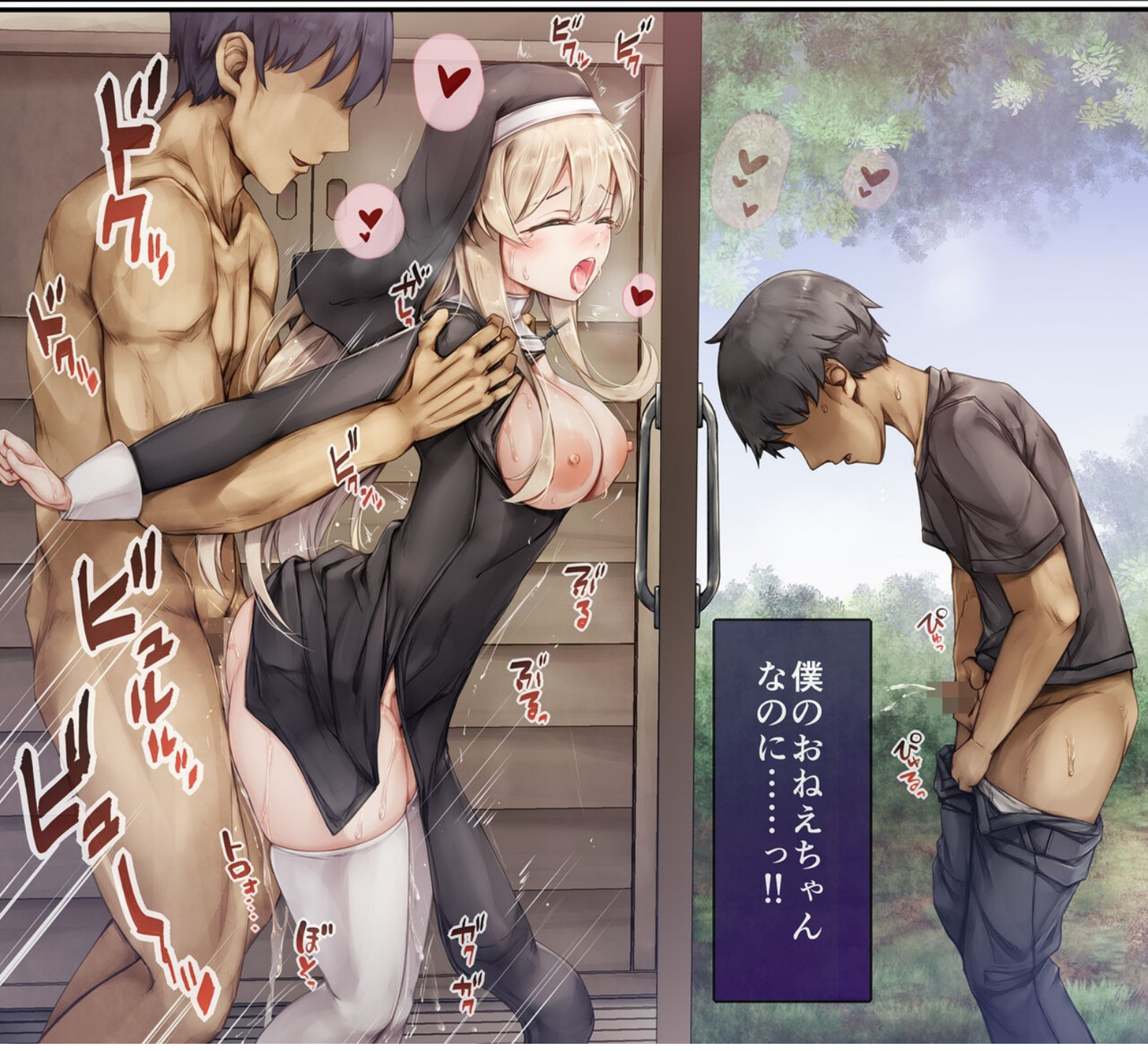
何でも……♥

アッ♥



美人で優しく、  
憧れで大好きな、  
僕のおねえちゃんが……

今おねえちゃんは  
この扉越しに……  
あいつと……ッ！



僕のおねえちゃん  
なのに……っ！！



もうしばらくしたら  
戻りますから……

それまで  
あの子たちのこと  
お願いできますか？



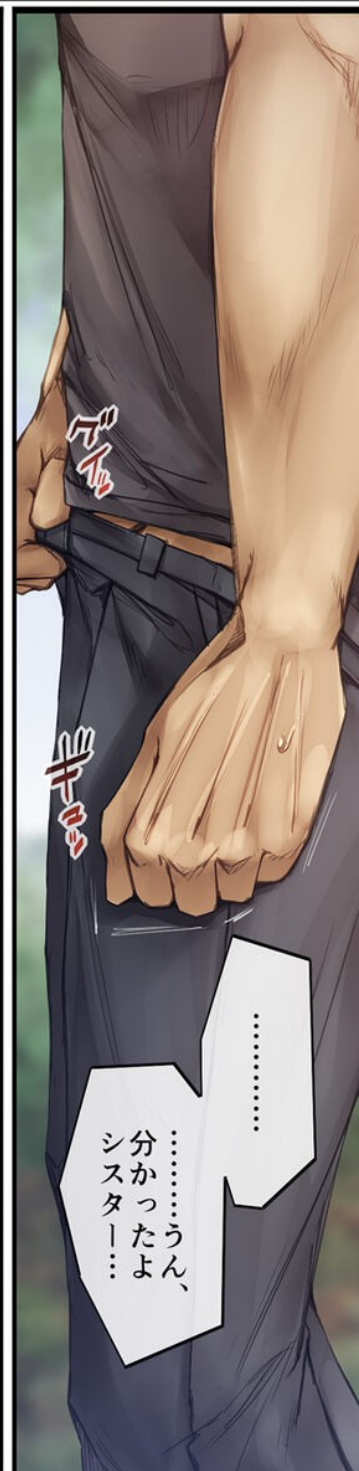
……はあっ  
はあっ  
♡♡



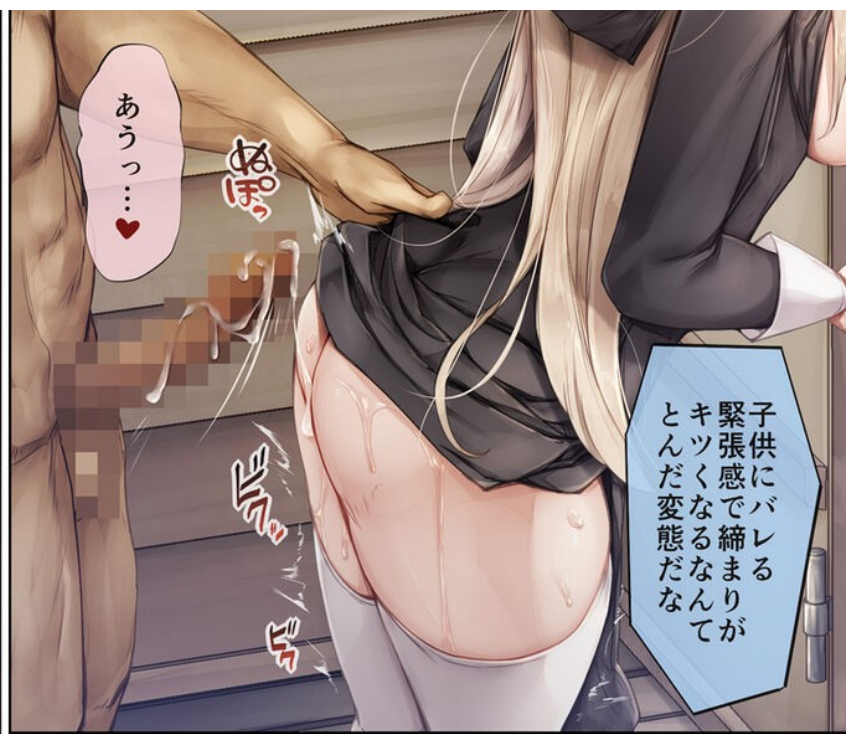
……



ありがとう  
ございます  
ケニー



……うん、  
分かったよ、  
シスター……







たん、ごしゅじんさまあつ♡  
あああつ♡  
ごしゅじん♥さまあつ♡

わたしはっ♡  
ごしゅじんさまの  
ものですうっ♡

身もっ♡  
心もっ♡  
ぜーんぶ♡



カペラ…ッ!

あああんっ♡  
ごしゅじん…  
さまあ…っ♡

まぶさ♡

あゝ♡



ああ……  
ご主人様の腕  
たくましくて……

ぎゅって  
されると

頭が  
びりびりして  
とろけちゃう……っ

あの子たちとは  
全然ちがう

支配して  
強引にリード  
してくれる



ぜんぶ……  
任せちゃって  
いいんだあつ

ぜんぶ……  
ごしゅじんさまに……

わたしの  
ぜんぶ……

寄りかかれるのが  
こんなにも心地良い  
ものだったなんて

ああっ

これが…

これが  
シアワセ  
なんです

シスター・エレノア…  
あなたも殿方に抱かれています、  
こんな満たされた気持ちに  
なっていたのですか…？

わたしは今…  
とても満たされて  
いますよ

ごしゅじん…  
ごまあ…  
イクっ  
イクまっ



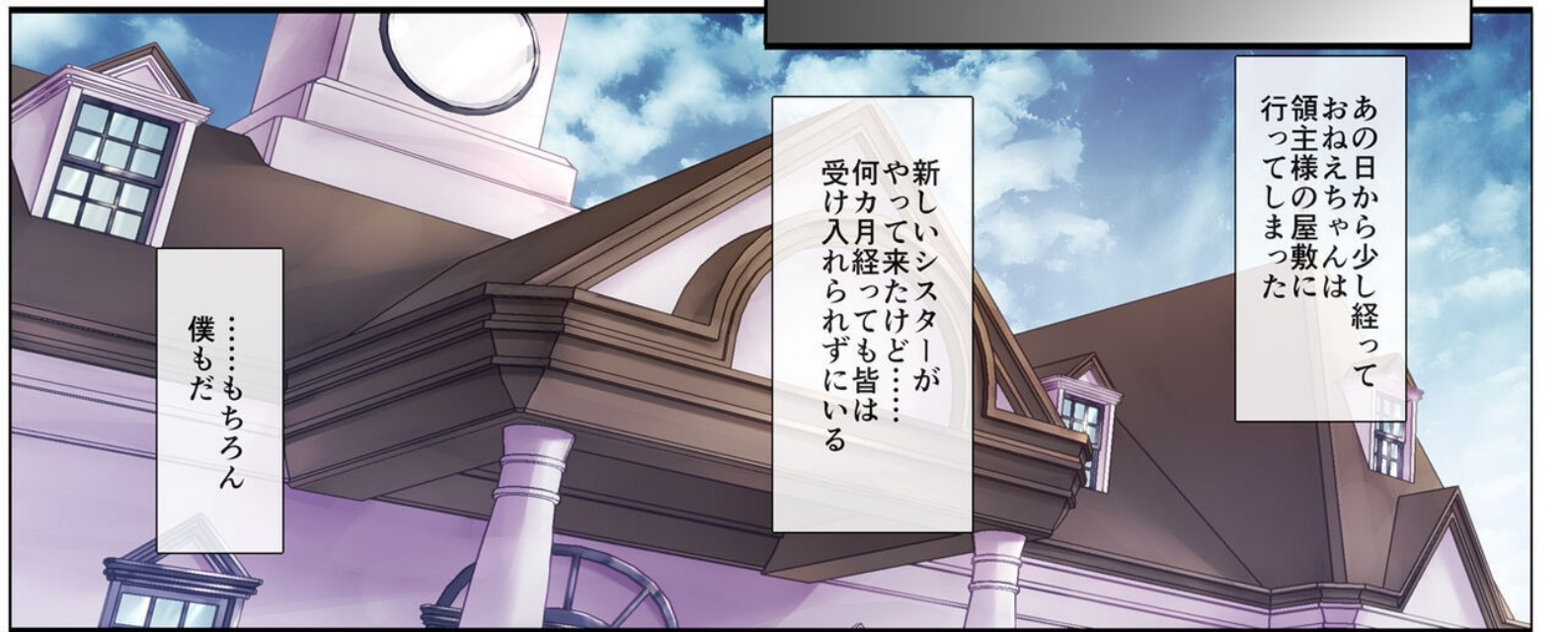




俺の子を授かるまで

いや  
授かったとしても毎日抱いてやるからな

……はっっ♡



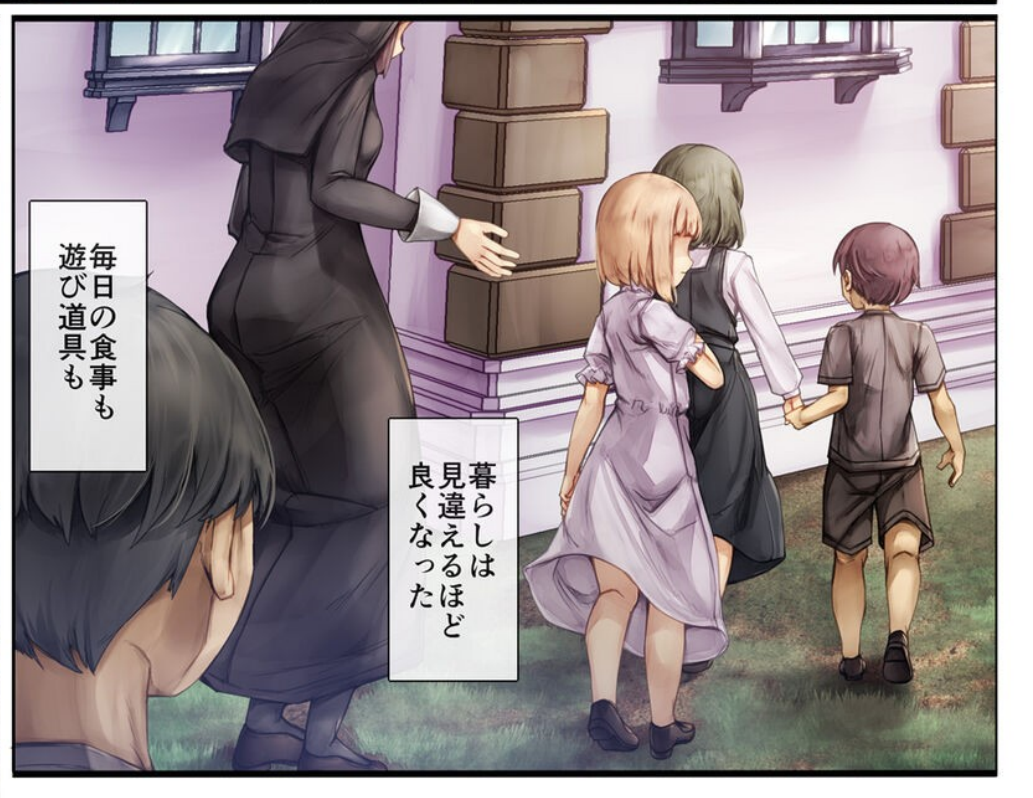
あの日から少し経って  
おねえちゃんはお領主様の屋敷に行ってしまった

新しいシスターがやって来たけど……何カ月経っても皆は受け入れられずにいる

……もちろん僕もだ



新しい孤児院に移り住む話もあるくらいだ



毎日の食事も遊び道具も

暮らしは見違えるほど良くなった



心の真ん中に  
ぽっかりと穴が  
あいてしまった  
みたいだ



ぎゅっ

本来であれば  
満たされた生活の  
はずなのに



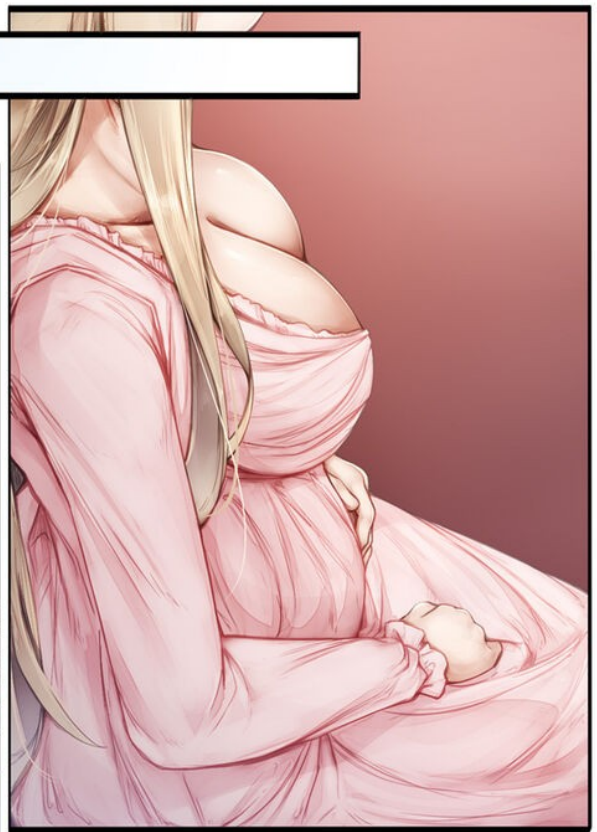
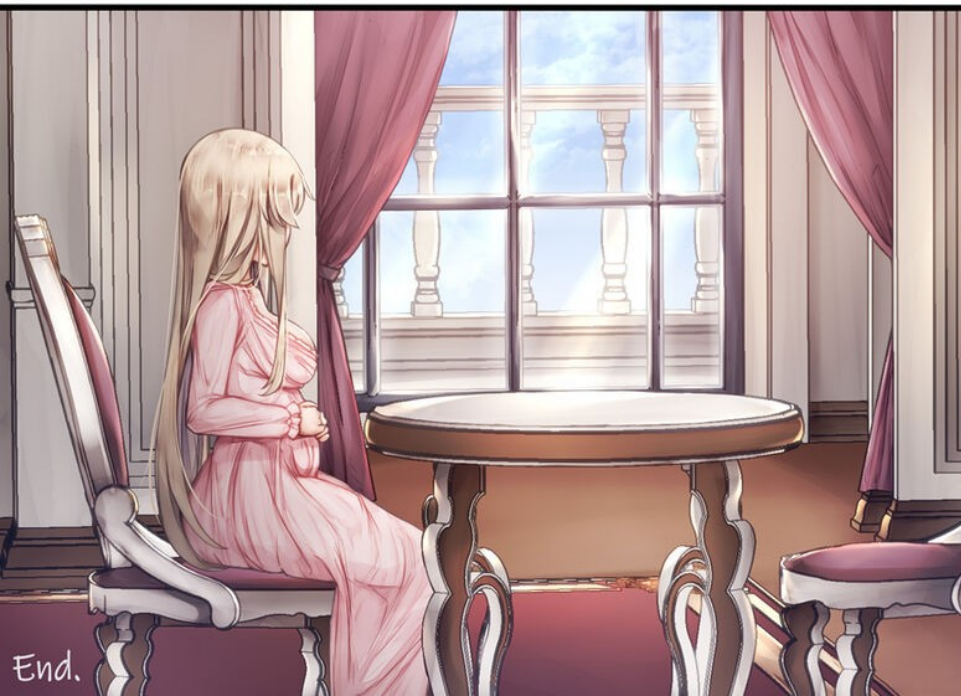
孤児の  
僕らにとって

いま元気に  
してるかなあ……



おねえちゃん……

会いたいよ……



End.